

「漆小学校の漆バラ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立漆小学校

2 学年・人数

第1～6学年 全児童33人

(上記に加え、漆校区民・教職員・PTA・地元中高生・卒業生した特認校生)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

8月上旬～9月中旬 始良市立漆小学校 体育館及び運動場

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月20日(日) 始良市立漆小学校運動会

4 伝承に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

漆バラ踊り(うるしばらおどり)

(2) 由来

豊臣秀吉の朝鮮出兵時の凱旋祝いとして踊りはじめたともいわれている、約400年の歴史をもつ伝統芸能。昭和期に入り、伝承活動が久しく途絶えていたが、昭和52年有志により復活。昭和56年には「漆バラ踊り保存会」が設けられ、地域全体で継承活動に努めている。漆小学校では、全児童に加え、教職員・PTAも一緒になり継承活動に努め、毎年9月の運動会で、漆バラ踊りを地域住民に披露している。

(3) 構成等

ドラ打ち2人・鉦打ち約6人・バラ打ち約20人で隊形を組み、竹バラに紙を張ったバラデコと鉦を打ち鳴らして踊る。踊りは、「三ツベ・カラ太鼓・七ツベ・門掛り・ビナマキ・ビナほどき・歌・引き」の八つの形からなり、これは島津の軍が「ビナマキ」(渦巻き)戦法で攻め落とした様子を、バラ踊りの形で後世に伝えたものであると云われている。現在は踊り手も少なくなり、踊りも昔より簡素化されている。

5 保存会や地域との連携の具体

現在、高齢化に伴い、「漆バラ踊り保存会」だけでは、運営が厳しい現状となっている。そのため、漆校区コミュニティ協議会・学校・PTAの3者が密に連携し、学校と校区コミュニティとの合同運動会で披露している。

指導を漆バラ踊り保存会、踊りを小学生と教職員、道具の作成・補修を校区民とPTA、全体のサポートを漆校区コミュニティ協議会が行っている。ここ1・2年でこの連携システムが確立しつつある。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- 漆小学校は、児童の8割が特認校生であることから、夜間練習時における送迎が課題であった。そこで、漆校区コミュニティ協議会が保有する車で送迎を実施した。
- 夜間練習の回数が多く、保護者及び児童の負担が大きかった。漆バラ踊り保存会・校区コミュニティ協議会・学校・PTAの4者で熟議し、夜間練習回数の減少・学校

の授業内での練習時間確保（2時間程度）など、負担軽減に向けて4者で可能な範囲で実施できることを協力することとした。

- 衣装などの購入品が必要な際、PTAへ漆バラ踊り保存会が購入経費を補助することとした。
- 合同運動会で披露する際に、準備の関係上、昼食直後の実施であったため、体調不良や熱中症の危険性が保護者・教職員から課題としてあがっていた。そこで、朝1番目に実施することで、準備の時間を確保しながら危険性を回避することとした。今年度は、その効果が十分に発揮・確認することができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【夜間練習の様子】



【校区民・PTAでの道具づくり】



【指導者・PTAの着付けサポート】



【運動会本番での披露の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 新型コロナウイルス感染症対策の関係上、どうなるか不安だったけど、運動会で衣装を着けて漆バラ踊りを披露できてよかった。
- 夜間練習や道具の補修など大変だが、今までよりも漆校区コミュニティ協議会・漆バラ踊り保存会・学校・PTAが一体となって取り組めていたので、よかったと思う。
- 夜間練習の送迎が仕事の関係で難しかったが、漆校区コミュニティ協議会がサポートしてくれたのでとても助かりました。
- 毎年、熱中症が心配でしたが、朝一番で実施だったのがよかった。
- 卒業した子どもたちも駆けつけてくれてお手伝いしてくれた。すごくよい伝統だと思う。こうやって、引き継がれていくのがいい。
- 初めて参加しました。子どもたちがよく頑張っていて、感動しました。特に、円形になっていくときはすごかった。
- 指導者や道具の作り手などが年々高齢化している。引継をしっかりとしていくことが課題。